

大規模校と小規模校のよい点と課題

1. 大規模校について

○よい点

- ①子ども同士が切磋琢磨する機会が多く、多様な意見や考えが出やすい。
- ②多くの友だちとふれあう機会があるので、性格や趣味の合う友達と出会いやすい。
- ③小学校で教科担任制を取り入れたり、学級の枠を超えて習熟度別の授業編成ができたり等、様々な工夫が可能となる。
- ④子どもたちを多くの教職員の目で見ることができるため、多面的な関わりができる。
- ⑤クラス替えを通して、様々な配慮が可能になるため、一つの集団で人間関係がうまくできなくても、他の集団でやり直す機会を得やすい。
- ⑥教職員の転出入が多いため、他市や他校での実践や取組、情報等にふれる機会が増える。
- ⑦運動会や各種の行事が活発になりやすい。

○課題

- ①個に応じた指導やきめ細かなフォローが難しくなる。
- ②学年の取組や学校行事において、子ども一人ひとりの活躍する場面が少なくなる。
- ③様々な価値観や生活環境の子どもが存在するため、個々に応じた生徒指導面での対応が複雑になりやすい。
- ④教職員間の意思疎通に時間がかかったり、多様な意見が出たりするので、学校全体をまとめることが難しくなることがある。
- ⑤宿泊をとまなう行事や校外学習等の場所が限定されることがある。
- ⑥特別教室等を使用する機会が限定される。
- ⑦学年の学習進度を揃えることが難しい。
- ⑧養護教諭等、校内で一人の教職員への負担が大きくなる。

2. 小規模校について

○よい点

- ①学力面や生徒指導面での把握が容易で、きめ細かな対応や個別対応が可能である。
- ②学年の取組や学校行事において、子ども一人ひとりの活躍する場面が多くなる。
- ③集団としてまとまりやすく、統一した指導がしやすい。
- ④異年齢集団による活動に取り組みやすい。
- ⑤子どもたち一人ひとりの生徒指導面での課題等に職員が目が行き届き、保護者等への働きかけも容易にできる。
- ⑥学校での指導体制や共通理解がしやすく、全職員で子どもたちに関わることができる。
- ⑦特別教室等を比較的自由に使用することができる。

○課題

- ①学習集団が固定化しがちで、子ども同士の切磋琢磨が難しくなり、多様な見方や考え方が出にくい。
- ②専科や少人数指導教員が同じ内容の授業をする機会がなく、指導方法の発展や深まりが難しくなる。
- ③小さな集団での生活で、固定した人間関係となり、いじめ等が生起した場合、クラス替え等によるリセット機能が働きにくい。
- ④専門性の高い教職員が少ないことが多いので、経験の少ない教職員に対する研修が深まりにくい。
- ⑤運動会や各種の行事を行う時に、人数が少なく寂しく感じることもある。